

釧路教育研究センター研究グループの活動

今回の「釧路教育」では、令和6年度の子ども支援研究グループ、学習指導・開発研究グループ、郷土読本・地域学習研究グループの各活動について紹介いたします。

【子ども支援研究グループ】

私たち子ども支援研究グループは、「釧路市内各小・中学校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について、調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的とし、研究を進めております。

昨年度の研究テーマは「不登校児童生徒に対する日常支援のあり方」についてでした。まだ担任を務めた経験がなかったり、不登校生徒の対応に不安を抱えたりしている若手の先生をターゲットに、不登校に対してどのように対応すればよいのかの一助にすべく研究を進め、研究紀要第195号として発行させていただきました。



研究紀要第195号
不登校児童生徒に対する
日常授業の在り方

令和6年度の研究テーマは「児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかける教育相談の在り方」です。令和4年12月に文部科学省が発行した『生徒指導提要』を活用しながら、「教育相談」の基本的な考え方や指導体制について確認し、我々が経験則に基づいて行っていた教育相談に対する考え方や方法に疑問や課題意識をもつところから研究をスタートさせています。

現在は今後の研究の方向性を明確にするために、全国の「教育相談」に関する研究事例を調査し、情報を整理しています。また、子ども支援研究グループ委員で「教育相談」における市内の先生方のニーズに合った研究内容について検討しています。最終的な研究のゴールは、学校で取り入れたいような実践事例や、学級で活用したくなる教育相談の技術・技法、さらには面談時の場所の設定や相談環境のつくり方などを集約し、研究紀要やリーフレットとして発行することです。完成の際にはぜひ手に取っていただき、今後の教育活動の一助にいただけると幸いです。

子ども支援研究グループは10月3日（木）に釧路市生涯学習センター「まなぼとと幣舞」で開催された研修講座『今求められるカウンセリングの実際』を運営させていただきました。芦野小学校の高島昌之校長を講師として「授業・学級経営における効果的な教育カウンセリング」についてご講演いただいた後、ご参加いただいた先生方が「教育相談の充実」をテーマとして協議を行いました。協議では、「講義で学んだ教育相談の理論を基に、自校の児童生徒の対応に生かしていきたい」など、意欲的に話し合う様子がありました。



釧路市立幣舞中学校 齋藤 政人

【学習指導・開発研究グループ】

学習指導・開発研究グループでは、令和5年度の全国学力・学習状況調査および釧路市標準学力検査の結果から、課題が見られた単元の短編動画による授業提案や算数・数学科における釧路市が目指す授業づくりのポイントをリーフレットにまとめる活動を行いました。

短編動画では、中学校数学科第1学年「文字と式」「方程式」「比例と反比例」のそれぞれの単元におけるポイントとなる1単位時間の授業提案をしています。先生方の日々の実践にぜひお役立てください。

また、9月には「算数・数学科授業づくりリーフレットNo. 1」を作成し、市内の小・中学校の先生方に配布しております。このリーフレットでは、小・中学校で共通する授業づくりのポイントについて、それぞれ板書を示しながら紹介させていただきました。次号では、授業の基本的な流れ（導入・展開・まとめ・振り返り）を小・中学校の実践を示しながら提案する予定です。

12月には、研修講座「小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」」の公開を予定しております。今回は、芦野小学校の尾形教諭による小学校算数科第4学年「面積のくらべ方と表し方」、桜が丘中学校の高木教諭による中学校第1学年「比例と反比例」（事前配信）の授業を提案させていただきます。小・中学校間の連携強化に向けた、算数・数学科での系統的な指導のポイントとして学習過程をそろえることについて、参加される皆様と共有できるよう準備を進めています。皆様の参加をお待ちしております。

授業づくり短編動画

①「文字と式」 ②「方程式」 ③「比例と反比例」



令和6年度 学習指導・開発研究グループ

算数・数学科授業づくりリーフレットNo.1

各教科等の目標達成のためには、小・中学校教諭が共に「釧路市が目指す授業」を日常的に実践し、義務教育9年間を通して、児童生徒が安心して授業に臨めるようにすることが大切です。
算数・数学科の授業づくりにおける小中連携のあり方について提案するため、「算数・数学科授業づくりリーフレット」を全3回にわたって発行します。第1回目は、「問題解決の授業づくりのポイント」について提案します。ぜひ、教材研究や日常の授業改善の指針としてご活用ください。

《小・中共通！問題解決の授業づくりのPOINT》

小学校第5学年 「直方体や立方体の体積」

本時の目標：複雑な立体の体積の多様な求め方について説明することができる。



POINT ①
本時の目標の設定

学習指導要領の目標を踏まえ、本時の目標を達成した児童生徒の姿を具体的に想定します。目標を1～2つに絞って簡潔に設定することが、働かせたい見方・考え方が明確となり、授業全体が洗練されます。

POINT ②
問題の設定 提示の工夫

本時の目標達成に向け、考えるきっかけを与える問いを「問題」として設定します。「おや？」「考えてみよう！」「という学習意欲を引き出すことがポイントです。実態に応じて、教科書問題の数値や図、提示の仕方を工夫します。

POINT ③
学習課題の設定

本時の目標に向かうために、児童生徒の「問い」や「つぶやき」をもとに、「何を考えるのか」が分かりやすい学習課題を設定します。この課題を解決することによって、本時の目標が達成されていきます。実際の授業場面では、教師の一方的な課題提示ではなく、児童生徒とやり取りをしながら明確にしていきます。

POINT ④
「まとめ」の設定

本時の学習課題に正対させた「まとめ」を設定します。数学的な見方・考え方となる部分が反映されていることがポイントです。実際の授業場面では、数学的な見方・考え方となる部分（黄色）が引き出せるような板書にすることで、本時の学習を振り返る際に、本時の目標にせまる「まとめ」を児童生徒から引き出すことができます。

裏面には、中学校の教材研究から実際の授業までの流れを紹介しています。詳細はリーフレットをご覧ください。



リーフレット

研修講座「小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」」

今年度は、小・中学校間の連携強化に向けた、算数・数学科での系統的な指導のポイントとして学習過程をそろえることについて理解を深める研修講座を開催する予定です。先生方の日々の実践にお役立ていただける講座にしたいと考えていますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

日時：12月23日（月） 12:30～15:40

会場：釧路市立芦野小学校

対象：小学校・中学校・義務教育学校・高等学校

授業：小学校第4学年算数「面積のくらべ方と表し方」

：中学校第1学年数学「比例と反比例」（事前配信）

授業者：釧路市立芦野小学校 尾形 加奈子

：釧路市立桜が丘中学校 高木 優斗

※追加の申込希望がある場合は、釧路市教育委員会
教育支援課（23-5189）にご連絡ください。

【郷土読本・地域学習研究グループ】

郷土読本・地域学習研究グループでは、「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方について研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本『くしろ』の内容の検討を行うこと」を目的とし、研究を進めております。今年度は主に以下の2点について研究を進めてきました。

(1) ふるさと教育の研究

「ふるさと教育の在り方について」の研究に関連して、11月28日に研修講座「地域への愛着をほぐくむ「ふるさと教育」の充実」を開催しました。釧路市の教育では、「釧路の風土で生まれ 未来に拓く 心豊かな人づくり」という基本理念のもと、以下の教育目標が掲げられています。

- ふるさと釧路を愛し 活力あるまちに奉仕する人づくり
ふるさとのよさを知り、郷土を大切にして、勤労に誇りと意欲をもち、地域づくりに貢献する態度を育むこと

(「釧路市教育推進基本計画(2023～2027年度)」より抜粋)

(2) 郷土読本『くしろ』の編集

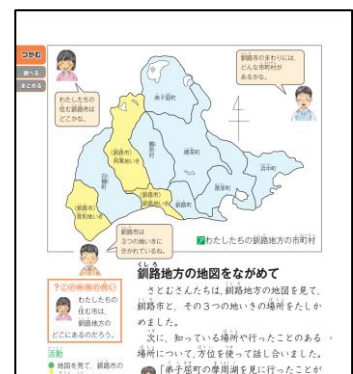
今年度は、ページのレイアウトを中心に編集作業を進めております。小学校社会科釧路市郷土読本くしろ(令和7年度版)の大きな変更点として、主に郷土読本を利用する单元において、各ページの左側に学習段階が分かる「タブ」を新たに付け加えています。その他、数値の情報更新や情報の訂正等を行っています。より便利で活用しやすい郷土読本となるよう、鋭意編集作業を進めております。

研修講座では、釧路市の教育目標の具現化を目指し、本研究グループのメンバーで釧路市立清明小学校の江渡教諭を授業者として、第4学年社会科「昔から今へと続くまちづくり」の「釧路湿原」を題材とした单元についての授業を公開しました。

現行の郷土読本では、「昔から今へと続くまちづくり」で扱う内容として「釧路市のまちづくり」、「漁業の発展」、「阿寒地域のまちづくり」、「音別地域のまちづくり」の4つがあり、その中から1つを選択して学習を行うことになっています。本研究グループでは、それら4つに加えて「釧路湿原」を扱いたいと考えました。ラムサール条約登録湿地であり、国立公園でもある「釧路湿原」は、現在の釧路市において重要な自然遺産の一つに数えられています。しかし、昔からそうであったわけではなく、実は、「釧路湿原」が現在のように価値ある存在に至るまでに、たくさんの人たちが関わり、多くの努力が費やされてきたのです。その結果、「釧路湿原」は、釧路にとって、日本にとって、そして世界にとって貴重な自然遺産と認められました。「釧路湿原」の価値が高まった経緯を学ぶことは、昔から今、そして未来の釧路を生きる子供たちにとって意義あるものだと考えました。

そこで、本研究グループでは、「釧路湿原」について学ぶための单元を新たに構想し、その授業を研修講座で公開いたしました。加えて、「釧路湿原」の保全に関わる機関の一つである釧路市環境保全課と連携して、ロイロノートの資料箱で今回の提案授業に関するすべての資料を公開する予定です。次年度より「昔から今へと続くまちづくり」の单元では、市内各校で「釧路湿原」の授業を選択できるようにしていきます。

子供たちがふるさと釧路への思いを高めるためには、授業を行う先生方が日常的にふるさと教育を意識して取り組んでいくことが不可欠です。本研究グループでは、そのサポートができるように引き続きふるさと教育の研究と郷土読本の編集を進めてまいります。



小学校社会科釧路市郷土読本くしろ
令和7年度版(一部抜粋)



釧路市教育研究センター研修講座
「地域への愛着を育む「ふるさと教育」の充実」の授業風景

釧路市立鶴野小学校 小野寺 隆

令和6年度道東地区研究所員研修会報告

日時：令和6年8月27日（火）～28日（水）

場所：釧路市生涯学習センターまなぼつと幣舞

7年ぶりに釧路市で開催された道東地区教育研究所員研修会に、十勝、根室、釧路、オホーツク管内の26研究所から所員が一堂に会しました。各研究所が掲げる今日的課題について、3部会に分かれて研究成果を交流しました。

講演会では、北海道教育大学教職大学院教授の安川禎亮氏を講師として、「メンタルヘルスアップ」という題目で、学校教育で活用できるストレスマネジメントやエゴグラムによる自己分析についてご講演いただきました。参加者全員が取り組む心理テストを通して、自身の性格や行動パターンを客観的に見つめる機会となりました。

分科会では、本研究センター子ども支援研究グループが「不登校児童生徒に対する日常の支援のあり方」と題し、昨年度からの研究成果を発表しました。不登校対応に悩む若手教員を対象に、紀要にまとめた研究成果を「基本編」「日常の心構え編」「実践事例編」の3つに分けて紹介しました。参加者からは、研究の有用性について高い評価を得るとともに、研究成果を現場の教員にどのように届けるかという課題も共有されました。その他、十勝教育研究所の柴田悠二氏からは、「子どもたちに自他を認め合う心を育む研究」について、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例が紹介されました。また、根室教育研究所の水口拓真氏からは、根室管内における実践講座「チャレンジとミライ」の取組と今後の展望が報告されました。

今回、初めて道東地区研究所員研修会に参加し、各研究所の先生方の熱意と探求心、そして児童生徒の未来に対する深い関心を強く感じました。今回の経験を活かし、次年度の研修会に向けて、研究をさらに深めていきたいと考えています。

釧路市立幣舞中学校 齋藤 政人

釧路教育研究センター 教育講演会 トークショー付

夢を叶える準備

講師：元プロ野球選手・野球解説者

鶴岡 慎也 氏

夢を叶えるためには、夢を抱くことの大切さや、その夢を具体的に形にするためにどのような準備や努力が必要か理解していることが大切です。鶴岡氏は、プロ入りまでの道のりや、厳しい競争の中で正捕手として定着するまでの苦労を通して「準備」の重要性を体得してきました。特に、プロ入り後も常にスキルを磨き、ゴールデングラブ賞やベストナインを獲得するまでの粘り強い努力、そして成長を追い求め続けたエピソードを交えながら、参加者に夢を叶えるための心構えと行動の大切さをご講演いただきます。

- 日 時 令和7年2月8日（土）
13：30開演（13：00受付開始）
- 場 所 コーチャンフォー釧路文化ホール 小ホール
- 問い合わせ先 釧路市教育委員会教育支援課学校指導係
0154-23-5189

